



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第67号

てんまてんじん

年首御慶

乙未 元旦



表紙解説	2 頁
束帶天神像	2 頁
「青山神饌田」収穫祭	3 頁
天神祭 短歌大賞	5 頁
天満天神えびす祭	6 頁
てんま天神まつり	7 頁
御神水井戸施設完成	8 頁
天満橋・天神橋同日開通式挙行	14 頁

「束帶天神像」

大阪天満宮所蔵 紙本著色

縦三七・七cm 横二九・三cm
室町末期～江戸初期 一幅

松浦清（大阪工業大学准教授）

平安貴族の正装である束帶に身を包んで座る天神画像です。一般的な束帶像と同様に、冠を被り、黒い袍を着て、手には笏を執っています。

脚部の白い表袴や背後に長く尾を引く下襷の裾も、束帯姿に相応しい表現です。また、高位の文官に許される儀仗用の太刀を佩用し、その際の組緒である平緒を前に下げるのも、高官の束帶の形式に適っています。

天神画像は実際に多様ですが、類型的な作品も比較的多く存在します。

特に束帯姿の場合は、本図のような着衣形式が多くの作例に共通して認められます。

本図の場合、敷物の表現に特徴があります。この敷物は円座です。円座は本来、藁や菅などの茎葉を円盤状に編んだもので、古くは公卿が用い、後に民間の夏の敷物となつたものです。平安貴族である菅公が敷物として用いても特段の不都合はないはずなのですが、実際の絵画作品では特別な意味合いが付与されます。

茶一碗を点じ、これを祭員によつて伝供申し上げました。続いて御薄茶が同じく宗匠によつて点じられ、大審菴による献茶式が斎行されました。御点前は左海大宗匠に御奉仕を賜り、表千家の先生方、久田家半床菴の先生方の随伴を得て、盛大厳肅に執り行されました。

当日は心配されていた前夜からの雨も上がり、洗い清めたような境内には、早朝から見えになつて、式の始まる少し前には拝殿が満席になる程の拝観者となりました。

時刻には、斎主以下祭員宗匠以下奉仕員が参進し修祓、献饌の頃から宗匠は御点前座にお進みになつて、先ず御炭の点前、次に御香を献じられ、茶筅が清められる頃には、祭員が大前に御菓子をお進め申し上げました。

これに続いて宗匠は、御濃



表千家 献茶式

十一月二十六日、本殿で表千家不審菴による献茶式が斎行されました。御点前は左海大宗匠に御奉仕を賜り、表千家の先生方、久田家半床菴の先生方の随伴を得て、盛大厳肅に執り行されました。

本年の副席掛け金は尋寿会がご担当され、本殿では、道明寺天満宮の名譽宮司でいらっしゃる南坊城充興様と、尋寿会の上野俊子様が代表として拝礼されました。

秋大祭

十月二十五日午前に御本殿におい

て秋大祭が斎行され、午後三時から

は恒例の「流鏑馬式」が斎行されました。

当宮の流鏑馬は、他神社で行われるよつに矢を放つて的を射るのではなく、的を半弓で打ち割る作法となつています。

大阪天満宮で行われる流鏑馬の最古の史料は、天正十四年（一五八六）の山科言経卿の日記ですが、その頃は馬上から矢を射ており、江戸時代前期にも同様の放射する姿が描かれています。

しかし、江戸後期になると、半弓で的を打ち割る、現在と同じ作法を描いたものに変わります。流鏑馬を行う馬場として表大門前の道路を使っていますが、この参道に民家が密集し始めたことにより、危険防止の為に当宮独特の形式が生まれたようです。



当日は、関西大学体育会馬術部の奉仕によって、まず本殿内の献饌に続いて宮司の祝詞奏上、奉仕者拝礼の後、神職が騎乗して「馬場清祓之儀」、前駆者による「馬場試乗之儀」が行われました。このとき馬場の適所に日の丸扇子が投じられ、的の位置を定める作法を行なうのです。

その後にいよいよ本駆者が登場し、先ず本殿前の庭上で「弓祈祷」の作法、続いて騎乗しての「騎射之儀」では三カ所の的が勢いよく打ち割られ、観衆の歓声と拍手の中、神事は終了しました。

〈今年の奉仕員〉
関西大学体育会馬術部
本駆者 広川 英峻（二回生）
前駆者 山林 恵央（四回生）
前駆馬 「千雄」

（きのと・ひつじ）

昨年の干支は「甲午（きのえ・うま）」でした。
これまでの悪い慣例や習慣にとらわれることなく、強い決意をもつて新しい体制や風儀を生み出す気概が期待される年だつたのです。皆様におかれまして、新たな歩みを進められましたでしょうか。

さて、今年は「乙未（きのと・ひつじ）」です。
これまでの悪い慣例や習慣にとらわれることなく、強い決意をもつて新しい体制や風儀を生み出す気概が期待される年だつたのです。皆様におかれまして、新たな歩みを進められましたでしょうか。

この一年が、皆様にとって「不昧（利欲に心をくらまされず聰明であること）」の年になりますことを祈念しております。

（安岡正篤大人の著書より）

平成二十七年元旦 大阪天満宮

乙未

ですから「乙未」の今年は、様々な抵抗を除去して歩みを進めなければならぬのですが、その方向を見誤ると、いたずらに暗雲が立ちこめるやも知れません。言い換えれば、

周囲との調和を見定めながら歩むことを特に心がけなければならぬ年だと言えましょう。

この一年が、皆様にとって「不昧（利欲に心をくらまされず聰明であること）」の年になりますことを祈念しております。

（安岡正篤大人の著書より）

これまでの悪い慣例や習慣にとらわれることなく、強い決意をもつて新しい体制や風儀を生み出す気概が期待される年だつたのです。皆様におかれまして、新たな歩みを進められましたでしょうか。

さて、今年は「乙未（きのと・ひ

「乙」は、草木の芽が曲がりくねっている象形文字です。去年の芽生えが外界の抵抗のためにまつすぐに伸びきれないで屈折した様子を示しています。



第五回 天神祭 短歌大賞

江戸雪賞 向井ゆき子（熊本県熊本市）
父母と拍手を打つ天満宮

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

高田ほのか賞 朝羽いむ（愛知県名古屋市）
隣にはあなたがきちんといてくれて
ヨーヨー風船はじいて歩く
天神橋筋商店連合会賞 大口公子（大阪市北区）

みんなが力明日を信じる
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

朱可琳（大阪市立天満中学校）
今はまた簡に大玉詰めるころ
泳ぐ金魚にため息かけるの
頭に描く大川の夏
優秀賞

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 住村豪仁（大阪市立天満中学校）
今はまた簡に大玉詰めるころ
泳ぐ金魚にため息かけるの
頭に描く大川の夏
優秀賞

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 林美結（群馬県沼田市）
はじめての天神祭のお囃子を
覚える私の町になるから
大阪天満宮賞

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 田畠穂果（大阪市立北稜中学校）
初めての自分で結ぶ帶つけて
友達と行く天神祭
優秀賞

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 朱可琳（大阪市立天満中学校）
今はまた簡に大玉詰めるころ
泳ぐ金魚にため息かけるの
頭に描く大川の夏
優秀賞

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 川ぞいに並ぶ夜店に目うつりし
清水康平（大阪市立北稜中学校）
初めての自分で結ぶ帶つけて
友達と行く天神祭
優秀賞

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 天神の牛つやつやと黒
華川ヒサ賞 久田泰子（豊能郡）
一本の川は祭の中をゆく
香川ヒサ賞 久田泰子（豊能郡）
一本の川は祭の中をゆく
百艘の船を往来させて

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞

大賞 月下 桜（兵庫県川西市）
華を載せ赤き綱もてひかれたる
天神の牛つやつやと黒
華川ヒサ賞 久田泰子（豊能郡）
一本の川は祭の中をゆく
香川ヒサ賞 久田泰子（豊能郡）
一本の川は祭の中をゆく
百艘の船を往来させて

いつもとは違う世界にいるような
灯る夜店に行き交う笑顔
祭り前夜はしいんとしてゐる
大阪天満宮賞





去る十二月三日、当宮境内南、御水井戸施設前に於いて「黒土祠御修復竣工並びに御神水井戸施設完成奉告祭」が斎行されました。

神事は、黒土祠の御修復や井戸施設の建設に御奉賛を賜りました御奉賛者の皆様方の参列の下に執り進められ、御神水舎をお祓い申し上げた後、施設完成後の初水が黒土祠の神前に供されました。

その後、寺井宮司を始め各ご代表

によるテープカットが執り行われ、

奉賛者の万雷の拍手をもって、井戸施設が正式に開かれました。

記念撮影後は天満宮会館「寿ノ間」

にて直会が執り行われ、寺井宮司の

謝辞に続いて、関西大学与謝野教授

より、この度の御神水再湧出に至る

経緯や、井戸を後世に継承すること

の意義など、心温まるご祝辞を頂戴致しました。その後、上方落語協会会長・桂文枝様のユーモアあふれる

乾杯の発声にて歓談に移りました。

会場では、神事後汲み上げられた

「天神の水」も振る舞われ、皆様そ

れぞれに復活した往時の名水を賞味

されました。「口あたり

がよくまろやか」「やわら

かく喉に通りやすい」など好評でした。

最後に、氏子総代土居

年樹氏による大阪締めで

お開きとなりました。

江戸時代、当宮境内の井戸水は、「千日前の福井の水」「道頓堀の秋田屋の水」「聚楽町の愛宕の水」とともに「大坂四カ所の清水」と賞される評判の美味でした。この「天神の水」の復活に向けたプロジェクトを、平成二十三年より、地域・関西大学・当宮との三者にて

進めて参りましたことは、本報第六一・六六号でご紹介致しました。この度、氏子・崇敬者の皆様方のお陰によりまして御井神を祀る黒土祠の御修理工事が竣工し、併せて御神水井戸施設が完成致しましたので、御礼方々ご報告申し上げます。

黒土祠御修復竣功 御神水井戸施設完成



ガラス工業発祥の地にちなみ再生ガラスを駆使して建設されたガラスの御神水舎



多條清光（きたじょう・きよみつ）さん（六三）をご紹介致します。
江戸時代から天満には乾物商がたくさんありました。清光さんは、そのような天満の昆布問屋の次男として生まれ、お父様の上（のぼる）さんが昭和26年に設立された「大阪昆布海産株式会社」に、20歳の時に入社。その後、昭和62年にはご自身で「株式会社天満大阪昆布」を設立なさいました。数々の協議会や委員会の企画運営もしながら、昆布文化の啓発に励んでいらっしゃいます。
2012年にはNHK「あさイチ」で、昆布を1mmの短冊状にして少量の昆布から美味しい旨味が出るよう工夫した「昆布革命」を発表し、

また、清光さんは50数年の間、大阪にいる日は、毎朝当宮へのご参拝を欠かしたことはありません。今日もこうしてお宮に来ることが出来ました、ありがとうございます。そういった御礼をお伝えするためだそうです。

近年は、その参拝の折の気持ちにも変化が生じてきました。「大阪のど真ん中で暮らしていて四季を感じられるのは、天神さんがあるおかげです。境内の自然や行事によって季節の移り変わりを感じられる。ありがたいことです。参拝客みんなでこのようないきたい」とおっしゃっていました。

河内野の葡萄畑の棚ごしに
青く小さき実を付け初むる
雪原に渡りの鳥の丹頂の
啼き声高く愛求む舞
幹事 松村 晓一
堺 永田 民子
田の畦にパツト開きし彼岸花
みおやをまつる秋をしらせて
大阪 岩城 富子
びちびちと竹簣にはねる鮎追ひて
男子二人は濡れたはむる
神戸 鈴木 敬子
彼岸花どきをたかわす咲き出てぬ
寝涅槃の釈迦のおはす御寺に
東大阪 中山 里江

人はみな遠くよりきて帰りゆく
旅する心渡り鳥のこと

大阪 大北 滋保

満天の星座あふきつ母とこし
湖畔の宿の波みつをきく

堺 土田 喜久子

渡り鳥大海原を越ゆる旅

つはさやすむる雁木くはへて

大坂 中瀬 央子

わたり鳥比叡のおろしに乗りのりて
芦の葉かけを一夜の宿と

大阪 竹久 英子

うつくしき細波たでしみすうみの
風はさやかに葦原をゆく

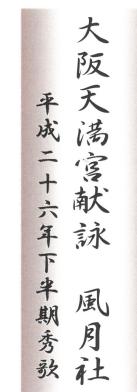
柳野 等



第十二回

あの人もこの人も

き起こしたことでも知られていま



山の端にスーパーームーン昇りきて
あまね輝ふ戦の地にも

から、当宮に御参拝を頂くぎつかけの一つとなり、我々神職がそのご縁を大切にし、いかに御神徳をお受け頂くか、そのことを考える必要があるのかもしれません。

また、朱印帳も神社や寺院によつて様々なデザインのものがあります。当宮の御朱印帳もかわいいと人気ですでの、御紹介させて頂きます。是非一度ごらんになつてみて下さい。

天満宮曝書御奉仕報告書

一〇月一七日午前一〇時、大阪書林御文庫講所所属の一五社から二七名が社務所に集合し、今年から講で準備した「芳名録」に記帳後、拝殿控えの間において、シーエムシー出版の門脇貴子氏が絵馬に「書林繁忙 大阪書林御文庫講」と揮毫いたしました。次いで本殿で曝書「奉告祭」に参列し、大阪屋の大竹深夫氏と新興出



天満宮曝書御奉仕報告書

天満宮曝書 御奉仕報告書

御文庫内より御本を慎重に運び出
し、梅香学院三階に並べて、御本に
風を通します。御文庫内において曝
書本のチエックは東方出版の今東成
人氏と清文堂出版の前田博雄氏が担
当いたきました。午前の作業後に
昼食を摂り、午後も曝書奉仕を継続
三時ごろには再び御文庫内に納本い
たしました。

終了後には、天満宮のご厚意によ
る直会があり、そこで天満宮より全
員に記念の「偉梅茶」を頂戴し散会
となりました。



(落合直也 撮影)



御奉仕の皆様ありがとうございま
した。　（和泉書院　廣橋研三）

御朱印とは、神社・寺院を参詣した際に、神職・僧職より社寺の押印と墨書きをいただくことをいいますが、ここ近年は御朱印を求める方が多く、参拝に来られます。

賑やかさが増している様に感じます。ただ、御朱印を社寺にて集めることが目的となり、本来の参詣の意味が忘れられているのではないかといふようなことも耳に致します。もちろん、御朱印はスタンプラリーなどではなく、集める速さや、種類を競うものではございません。しかしながら、当宮に御参拝を頂くきっかけ

出版社啓林館の佐藤徹哉講長が玉串を奉奠いたしました。続いて拝殿前でBL出版の落合直也氏による集合写真撮影の後、文化研究所前に移動し燃焼社の藤波優氏から作業手順などについて説明を受けた後、高島先生の御指導のもといよいよ曝書の奉仕にとりかかりました。

国書本に比べて、馴染みの薄い内容
だったこともあり、例年より皆さん
の反応が鈍かつたようです。そこで
米村昌彦編室から「来年は漢籍本に
加えて、皆さんのご興味を引く国書
本も同時に曝書しましょう」との御
提案を戴きました。

大阪天満宮所蔵古文書から⑤ 明治二十一年十二月二十日 天満橋・天神橋 同日開通式挙行

今からちょうど一三〇年前、大阪

では豪雨による洪水で、多くの橋が

流失しました。その橋の中には、江

戸時代から「浪華三大橋」と称され

た天満橋・天神橋・難波橋も含まれ

ていました。

今回は、流失した天満橋・天神橋

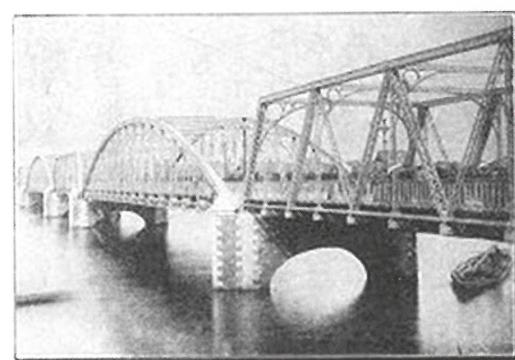
の架橋と、同じ日に「橋の開通式を

挙行したお話をします。

明治十八年の淀川大洪水



天満橋



天神橋

『日本之名勝』明治33年発行 国立国会図書館蔵

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天安治川橋だけが残ったことから、天満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当時の府知事建野郷三氏が提出しました。しかし、府民の生活も不便ならぬ時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する案で、何とか可決されました。

一先ずは、大阪の南北の往来が叶いました。天神橋仮橋は少し後れて翌年七月二十一日に架けられました(『朝日新聞』より)。

復興に向け議会では、被害地区の中、鉄橋であった難波橋(北側部)と安治川橋だけが残ったことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に、鉄橋に莫大な費用を投じることに議会は猛反対で否決。そこで建

野知事は民意に背く形で、内務大臣の内諾を得て、天満・天神等五橋は

鉄橋、一四橋を鉄柱木橋で架設する

案で、何とか可決されました。

明治十八年(1885)六月、上旬より続いた降雨に加え、二つの低気圧が相次いで大阪を襲いました。同十八日の明け方、この雨により枚方(大阪

府北部)の淀川堤防が百間(約182メートル)にわたって決壊、濁水は大阪府北東部と大阪市内に流れ込みました。

同日付当宮の日誌にも「淀川洪水、枚方堤防破壊、淀川以東攝河之諸郡水害ヲ被ル」と記されています(「本

殿詰所日誌」K2-19)。

それから十日経つた同月二十八日頃、再び豪雨が襲います。決壊場所

の堰止め工事完成まであと一步と迫

た。ついで天満橋・天神橋と、淀川堤防が決壊したことから、天

満橋他一七橋を鉄橋化する案を、当

時の府知事建野郷三氏が提出しまし

た。しかし、府民の生活も不便ならぬ

時に

国旗のある風景

祝祭日には国旗を掲げましょう！

毎年一月二十七日は「国旗制定記念日」です。この日、大阪では日本会議大阪の主催、大阪府神道青年会の協力により、寒空のもと御堂筋をパレードし、祝祭日にはどの家庭でも日の丸が掲揚されることを願い、府民に国旗掲揚を呼びかけています。



近年は、祝祭日に国旗を掲揚されてもおられる家庭を見かける機会が少なくなっていますが、そんな中、当宮の門前の町会では祝祭日の度に多くの家々が国旗を掲揚されていました。

日の丸は正式には日章旗と呼ばれ、生き物全ての命の源である、太陽をかたどつたものです。

日の丸が歴史に初めて登場するのは、大宝元年（七〇一）に文武天皇が元旦に「日像」を飾られたことが起源だとされています。

その後、日本を代表する旗として登場したのは、近代の国際社会に参加する際です。江戸時代の終わり頃、外国船が我が国との国交を求めて頻繁に来航するようになります。その際に外国船と日本の船を識別するため、「船印」として白地に朱の丸の旗を掲げるよう幕府が定めました。明治政府もこの定めを引き継ぎ、

改めて、明治三年二月二十七日（旧暦）、に日の丸を「国旗」と定め、外航路の貿易船は必ず「国旗」を掲げる事、さらにその寸法など細かく布告されました。

近年、国旗を掲揚される機会が減ってきておりますが、日本の国が定める、「祝日」「祭日」に国旗を掲げ、その意味を考え、日本を感じみてはいかがでしょうか。

当宮授与所にて、家庭用の国旗の授与も致しております。お気軽にお声をお掛け下さい。

一方、地中の埋蔵文化財については、地下鉄に限らず土木工事などの開発事業にあたって、保存に向けての配慮が文化財保護法に定められています。そこには先人への敬意を感じますが、果たして同様に地下水などの自然資源へ敬意は十分だろうかと考える機会ともなりました。

編集後記

平成二十三年に始まった「天満の水」復活プロジェクトは、昨年十二月の「御神水井戸施設完成奉告祭」によって、一段落を迎えました。

当宮の井戸水が枯渇した原因の一つに、地下鉄工事を挙げる報道がありました。地下に巨大なトンネルを掘るのですから、地下水脈が分断されたことは容易に想像できます。

一方、地中の埋蔵文化財については、地下鉄に限らず土木工事などの開発事業にあたって、保存に向けての配慮が文化財保護法に定められています。そこには先人への敬意を感じますが、果たして同様に地下水などの自然資源へ敬意は十分だろうかと考える機会ともなりました。

■帰幽報告■

氏子総代

野村 祐三 様

前 御羽車講 講元

瓜生田 炳次 様

人事任免

〔退任〕 七月三十一日付

巫女 矢原 ほ乃佳

大阪天満宮社報
てんまてんじん 第67号
平成26年12月25日印刷
平成27年1月1日発行
発行人 寺井種伯
発行所 大阪天満宮社務所
TEL 06-6353-0025
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-8
印刷所 木村印刷株式会社